

存じます。けれども世上往々吾人の誠意の在る所と、其精神の存する所とを究めずして、徒らに揣摩臆測を逞らし、或は之を曲解するにあらざれば、或は殊更に中傷的言辭を弄する等、匪んに流言蜚語が宣布せられ、本會結成上、迷惑を感ずる所、渺からぬのであります。

所謂衆口金を溶かすの譬もありますから、此機會に於て、其誹妄を辯駁し、吾人の旗幟を鮮明にして置くことは、敢て無益でないと思ふのであります。

抑も、吾人の目的とする所は、國家に毒を流しつゝある腐敗政黨の積弊を打破して、眞に帝國憲法の精神に率由し、其眞髓に觸るゝ所の、皇室中心及國家本位の政治の實現を計り、以て腐敗政黨の流しつゝある毒を排除して、所謂救國濟民の實を擧げんとする耿耿たる一片の赤誠の發露に外ならぬのでありまして、毫も他意あるものではありませぬ。即ち明倫會は所謂俯仰天地に愧ぢざる正義の結晶と申しても敢て過言でないと思ふのであります。

惟ふに、今や我國民の大部は、既成政黨を視ること恰も蛇蝎の如く、孰れも慄然として其毒牙より脱れん事を熱望致し、御列席の諸彦の如き、憂國の念燃ゆるが如き、正義の志士の蹶起を嚮望すること恰も大旱の雲霓を望むが如しと思ひます。此秋に際し、吾人同志が協心戮力、彌々結束を堅うして奮起し、警鐘を鳴らして、大いに天下に呼號致しましたならば、天下民衆は翕然として、吾人正義の旗幟の下に馳せ參ずることは、毫も疑を容るゝの餘地なしと確信致して居る次第であります。

然は然り乍ら、假令既成政黨は氣息奄々たる状態に在りとは申すものの、多年彼等の築き上げたる其地盤と其勢力とは、今尙侮り難きものがあると思ひます。随つて固より尋常一様の慣用手段では吾人の此重大にして至難なる使命の達成は覺束ないと思ひます。依て吾人は、陣頭に起つて、征途の第一歩を踏み出すに方では、牢乎として抜くべからざる一大決心と、敢然たる勇氣とを以て、前途に横はる幾多の障碍と、難關とを突破し、最後の決勝點に向つて勇往邁進し、斃れて後已むの決死的覺悟を前提とせなければならぬ事は申す迄ないのであります。故に吾人は、此牢固たる、堅き信念の下に、終始し度いと存じます。當然其行動は、規約に明記してあります通り、正々堂々であつて、矯激を排し、正義公道を基調とし、苟も常軌を逸するが如き無謀過激の行動は、之を絶対に慎まねばなりません。

終りに政界の現状を一瞥しまするに、現内閣は今や老大なる來年度豫算の編成難に陥り、且つ滿洲問題を中心とする對外的最大難關に衝突し、其前途は頗る暗澹たる状態に見受けられます。けれども、此曠古の一大國難に直面して、彼の政黨者流の私利野望を充さんとする政權争奪の爲め、徒らに政變を惹起するが如きは之を避くる事が、國家のため得策と考へます。然れ共現内閣が此難局を突破すること能はずして、遂に自滅の運命に陥りました場合、既成政黨に政權が落つる様な事がありましたら、彼等は再び従来の暴狀醜態を演じ、國政を紊亂する事は火を踏るよりも明瞭であります。

吾人より之を觀れば、彼等政黨は再び國政に參與するの能力もなければ、將又資格もないのであります。況ん